1-6

北口本宮冨士浅間神社

浅間大神が祀られていた遥拝所を起源として建立されたと伝えられる浅間神社。後に、吉田口登山道の起点として富士講とともに発展した神社です。

2

富士山本宮浅間大社

全国の浅間神社の総本社。噴火を鎮めるために浅間大神を祀ったことを起源とし、806年に現在の地に社殿を移しました。

3

山宮浅間神社

富士山本宮浅間大社の前身で、社殿の代わりに遥拝所が設けられ、富士山に鎮火の祈りを捧げたといわれています。

9,10

御師住宅
(旧外川家住宅・小佐野家住宅)

道者や富士講信者が登拝する際、寝食の提供を行った施設。

*10小佐野家住宅は非公開

13~20

忍野八海

富士山の湧水からなる8つの池（出口池、お釜池、底抜池、銚子池、湧池、濁池、鏡池、菖蒲池）の総称。「富士山根元八湖」と呼ばれる古くからの霊地でした。

21

船津胎内樹型

溶岩流が樹木を巻き込んでできた溶岩樹型のうち、内部が人間の胎内に似たものを胎内樹型と呼びます。富士講信者が「胎内巡り」という信仰活動を行いました。

*22吉田胎内樹型の内部は一般公開されていません

22

吉田胎内樹型

7

河口浅間神社

9世紀後半の噴火を機に建立されたと伝えられる浅間神社。河口の地は、都と甲府盆地を結ぶ官道（御坂路）の宿駅として栄えました。

8

富士御室浅間神社

富士山中に最も早く祀られたともいわれる浅間神社。吉田口登山道の二合目に修験や富士講の拠点である本宮が、河口湖畔には里宮が置かれています。

23

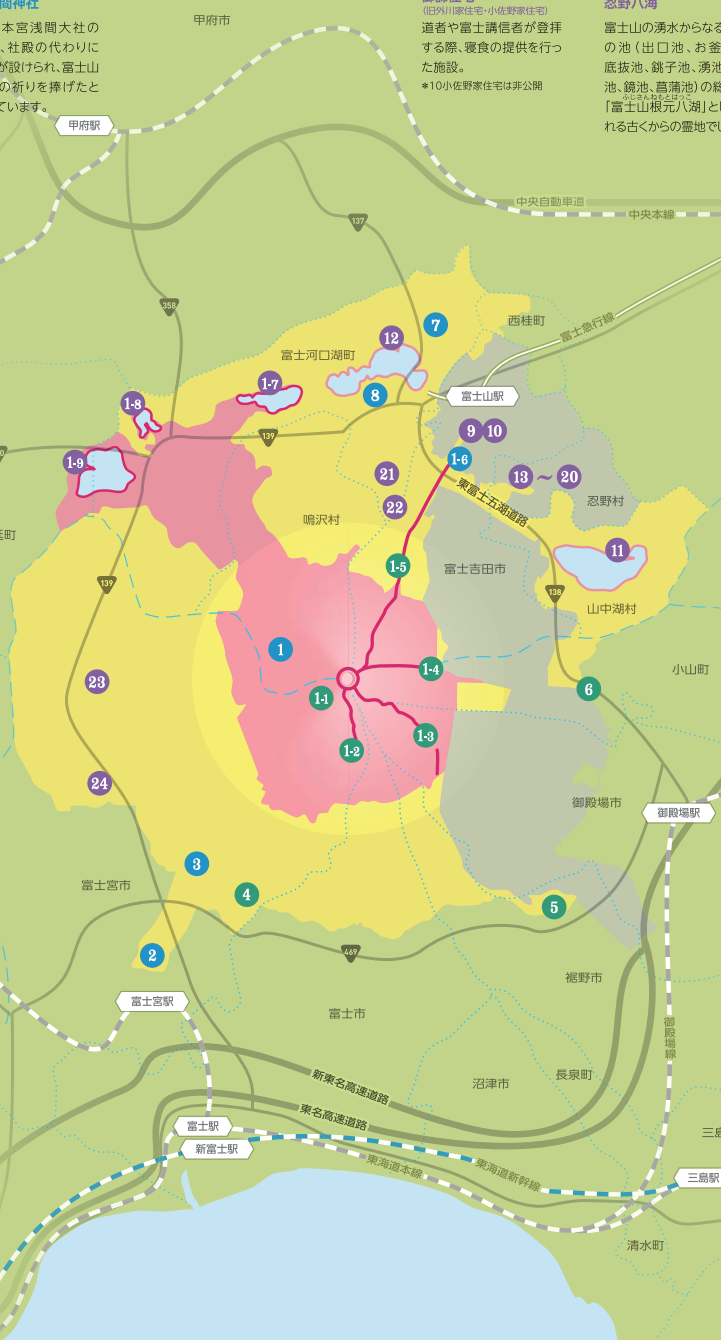
人穴富士講遺跡

富士山の神の御在所として伝えられる溶岩洞穴。長谷川角行が修行の拠点としたことから、富士講の聖地となりました。

24

白糸ノ滝

富士山の火山層からの湧き水が流れ出る名瀑。長谷川角行が人穴に入る前に身を清めた地とされ、富士講信者の巡礼の場ともなりました。



1-1

山頂の信仰遺跡群

修験者の登拝が始まると、山頂の火口壁に沿って信仰の拠点が建てられました。火口の周囲にある8つの峰を、極楽浄土を表す八葉蓮華に見立てて巡る「お鉢巡り」も行われました。

4

村山浅間神社

末代上人が修験道の拠点とした浅間神社。富士山本宮浅間大社を起点とし、村山浅間神社を経て山頂に向かう登山道は、多くの修験者に利用されました。

1-2

大宮・村山口登山道
(現在の富士宮口登山道)

5

須山浅間神社

須山口登山道の起点とされた浅間神社。この道は宝永大噴火で大きな被害を受けました。

1-3

須山口登山道
(現在の御殿場口登山道)

6

富士浅間神社(須走浅間神社)

延暦大噴火を受けて807年に造営されたと伝えられる浅間神社。須走口登山道は富士講信者の巡拝に利用されました。

1-4

須走口登山道

1-5

吉田口登山道

北口本宮冨士浅間神社を起点とし、現在でも山麓から山頂まで徒歩で登ることができる唯一の登山道です。

25

三保松原

この地から望む美しい富士山の姿は、多くの芸術家に影響を与えてきました。「万葉集」以降の多くの和歌集に登場し、謡曲「羽衣」の舞台や浮世絵の題材としても取り上げられています。

構成資産	顕著な普遍的価値を有する区域
構成要素	構成要素は富士山域に含まれる登山道や湖などの文化財
緩衝地帯	構成資産の効果的な保全を目的として、資産の周辺に設定した区域
保全管理区域	構成資産と緩衝地帯の外側に設定した、自主的な管理に努める区域

1 富士山域
- 1-1 山頂の信仰遺跡群
- 1-2 大宮・村山口登山道(現在の富士宮口登山道)
- 1-3 須山口登山道(現在の御殿場口登山道)
- 1-4 須走口登山道
- 1-5 吉田口登山道
- 1-6 北口本宮冨士浅間神社
- 1-7 西湖
- 1-8 精進湖
- 1-9 本栖湖

2 富士山本宮浅間大社
3 山宮浅間神社
4 村山浅間神社
5 須山浅間神社
6 冨士浅間神社(須走浅間神社)
7 河口浅間神社
8 富士御室浅間神社
9 御師住宅(旧外川家住宅)
10 御師住宅(小佐野家住宅)
11 山中湖
12 河口湖
13 忍野八海(出口池)
14 忍野八海(お釜池)
15 忍野八海(底抜池)
16 忍野八海(銚子池)
17 忍野八海(湧池)
18 忍野八海(濁池)
19 忍野八海(鏡池)
20 忍野八海(菖蒲池)
21 船津胎内樹型
22 吉田胎内樹型
23 人穴富士講遺跡
24 白糸ノ滝
25 三保松原

構成資産に関する詳細情報はこちら